施策評価シート （評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	3 ネットワークによる青少年の育成	② 施策番号	7403
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 青少年、子どもの健全育成		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育委員会	生涯学習課(青少年センター)		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	おおむね18歳以下の子ども
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	おおむね18歳以下の子どもに青少年センターを拠点として、保護者や地域住民との世代間交流、異文化交流を促進し、協働や共感の輪を広げる。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	学校や地域コミュニティとの積極的な連携による青少年向け施策の充実が求められている。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)		単位	指標とした理由・考え方
①	他施設、他部門、他団体との連携事業数 計算式	件	学校や地域団体、他団体などとの連携の進捗状況がわかるため
②	計算式		
③	計算式		

指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
① 他施設、他部門、他団体との連携事業数	件	目標値	12	12	12	12	—
		実績値	5	9	10	—	
		達成率	41.7%	75.0%	83.3%		
②		目標値					
		実績値					
		達成率					
③		目標値					
		実績値					
		達成率					

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価		今後の方向性
1	青少年学習活動推進事業	他施設、他部門、他団体との連携事業数	件	9	10	8	9,970	8,248	9,262	A	ア	◎
2	子ども元気広場推進事業	参加者数	人	8,282	5,248	4,800	9,689	16,072	14,497	B	イ b	○
3	運営委員会事業	運営委員会提案数	件	60	60	60	2,477	1,187	1,232	A	ア	
4												
5												
6												
7												
8												
計	3						22,136	25,507	24,991			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのよう貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	青少年センター運営委員会には、地域の青少年活動団体から委員を選出しており、また、大阪府内の青少年・子ども施設連絡会議に参加し、府内市町村ともネットワークを生かし、情報交換や先進事例に触れるなどして職員のスキルアップを図るなど、地元のみならず府内も視野にいたれた様々な交流活動により青少年の健全育成に貢献する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	運営委員からは年々多数の意見が提案されるようになっており、行政だけでない貴重な意見の吸い上げができていくことがわかる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	運営委員会は設置目的に沿って開催しており、大阪子ども・青少年活動施設連絡会でも、経費や運営方法、事業内容については、総会でははかれており適切であると考え。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	ネットワークにより様々な青少年の育成にかかわる事業を行っており適正。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	行政だけでなく、市民からの青少年の育成へのかかわりとして、大切な事業であると考え、いずれの事業も重要であるが、特に運営委員会については貴重な意見をいただける場として重要と考える。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	B	委員や他の施設担当者は多忙なため、頻繁に会を開催できない。会としての正式な場以外でも、積極的に交流をもって随時協力をお願いしていくことが必要。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	運営委員会や、連絡会議により得た貴重な意見や提案を精査し、実施していく。
短期的対応 (1、2年のうちに取組む改善案)	改善に向け、実施していく中で出る新たな問題について運営委員会でさらなる検討を行う。また連絡会議と連携し、他の施設の改善策等を参考にする。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取組む改善案)	あり方基本方針を踏まえ、今後の事業のあり方を検討する。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	連携した取組による事業数は増加傾向にあり、ネットワークによる青少年の育成が適切に行われている。関連部署との調整・連携により、市内各所における青少年と様々な年代の市民とが交流するネットワークづくりを進められたい。	